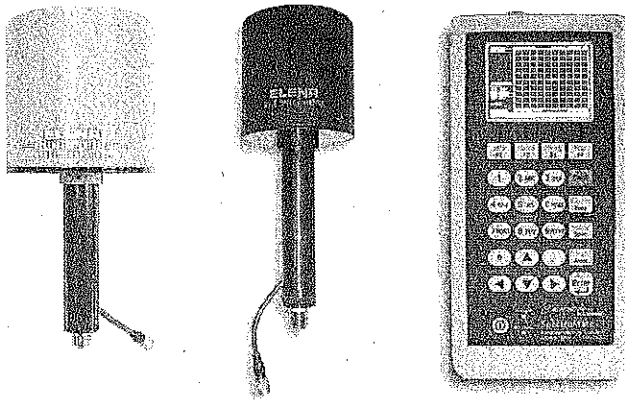


営電 超広帯域アンテナ新製品 (30kHz~30MHz対応)

スペアナに接続で 車の無線給電開発に貢献
漏洩電界[※]と簡易測定



(左から) 新製品の超広帯域のアンテナ「FHA7901A-002」、30^μAから1^μA対応アンテナ、スペアナ



深川 取締役

同社は昨年7月に、子会社格参入した。周波数帯域が30^μAから1^μAをカバーした超広帯域アンテナ。周波数範囲は100^μAから1^μAまで、ノイズレベルは約140dBm/Hzのハンディタイプのスペアナをそろえた。

深川正人取締役企画室長は「アンテナとスペアナの波数範囲が30^μAから30^μAまで、重さは約600gの軽量・コンパクトを実現。電界(電場、電荷)を及ぼす空間の性質の一つを感度よく測定する。

新製品投入を機に、これまでのシステム(アンテナとスペアナ)提供から、個別販売に切り替える。税別価格はアンテナ(30^μAから1^μA対応)が48万円、スペアナが42万円。

新しいアンテナをスペアナに接続することで、直接、電界を測定する。近傍界の電界測定を支援する。「家電用にも対応」

実現が急がれている電気自動車(EV)用のワイヤレス給電システムにおける漏えい電界や干渉電波の簡易測定ができる。「EVを中心とする車載市場から開発・投入が急がれていた。家電機器用のワイヤレス給電需要にも対応している」と深川取締役は強調する。

同社のスペアナを組み合わせたことで、CISPR(シスプル、国際無線障害特別委員会)16を踏まえ、100^μAから1^μAまでの簡易測定がすぐにできる。

営電は、超広帯域のアンテナ「FHA7901A-002」(税別価格48万円)を発売した。自動車のワイヤレス給電(無線給電)の開発などに貢献する。漏えい電界や干渉電波を簡易的に測定できる。国内を中心に、年間販売目標は100台以上としている。

GPS(全地球測位システム)機能の搭載やSDメモリーによるデータ保存、約4時間のバッテリー駆動を背景に、スペアナの引き合いが高まっている。深川取締役は「今後、新製品のアンテナ性能を最大限に生かせる新しいスペアナを発売する予定」と話している。

製造装置・材料・計測